ともに新聞

第5号

□二〇二二年（令和四年）十二月

□鞆の浦学園　学園会

新聞づくりを通して

学園会の役員交代で次期役員にバトンが渡されます！

取材を通していろいろな方と出会い、お話をさせていただく中で、どんな気持ちで活動したり生活したりされているのかがよく分かりました。みなさんが親切に接してくださったことが心に残っています。この新聞を通して、もっともっと地域のことを紹介していきたいと思いました。

（和田　葉登輝）

記事を担当することもインタビューをすることも初めてだった私にとって、新聞づくりは正直不安でした。やってみると楽しくて、新しい発見がたくさんありました。私にとっていい経験になりました。

（沖浦　帆奈）

地域の方へのインタビューを通して、いろいろな考えがあることが分かり、たくさん学べたし、楽しかったです。地域の方と交流ができ、いろいろな力がつきました。これから生かしていきたいです。

（根本　健伸）

地域の方が、鞆のことや僕たちのこと、鞆の浦学園の取組についてどう思っているのかが分かりました。僕が大人になった時、地域の方が話してくださったような鞆にしていきたいと思います。

（田口　晴也）

初めてインタビューした時、とても緊張したことが思い出されます。地域の方が優しくて温かくて、楽しく活動することができました。

（松木　美里）

自分たちの手で新聞を発行し、他にはないものをつくることができてよかったです。インタビューを通して、普段聞けないことを聞けたり、鞆のよさを聞けたり、改めて鞆のことが好きになりました。

（志田　菜渚花）

始めは分からないことだらけだったけれど、これからの新聞発行のお手本になれるようにと努力しました。一号、二号、三号…と発行されるたびに内容が進化し続けていて、今後の新聞が楽しみになりました。続いてほしいと思います。

（山本　八依）

新聞発行や取材を通して、地域のつながりをすごく実感することができました。取材のたびに、鞆の方たちの地域愛を知り、鞆ならではの人の優しさや温かさに触れることができました。また、私自身、人と話すことが好きなので、インタビューを通していろいろなお話を聞くことができ、とても楽しかったです。いい経験ができました。

（古山　朝子）

「絆」リレー　NO5

鞆町にある御船宿「いろは」でお話を聞かせてくださったのは、カメラマンであり、デザインを担当されている松居大祐さん。会社の商品のPRに携わり、商品のよさがより多くの人たちに伝わるように撮影に臨んでおられるそうです。

なぜ今の仕事をされるようになったかを尋ねると、子どもの頃から絵を描くことが得意で、そのことを評価してもらえたことが影響していると教えてくださいました。

そして、今の仕事をするまでのことを話してくださいました。東京の大学を卒業後、テレビの製作に携わるようになり、毎日多忙な日々を送るように。やるからには一番になりたいと必死で打ち込まれたが、睡眠時間を削らなければこなせなくなるほどの仕事量に。その時、松居さんに転機が訪れます。もう一度自分自身を見つめ直し、やりたいことを確認するために、世界一周の旅に出られます。そこで、観光地だけではなく、地方を訪れることで、その土地その土地のありのままの姿に触れ、素晴らしさを感じることができたそうです。また、その経験が、鞆の見方を変えてくれ、今の自分があると、生き生きとした明るい笑顔で話されました。

ありがとうを伝えたい　NO5

鞆城跡の高台に建設された「鞆の浦民俗資料館」で館長を務められ、鞆の浦学園の児童生徒の学びを支え、新たな気づきを与えてくださっている通堂博彰さん。感謝の気持ちを伝えるとともに、資料館に寄せる思いを聞かせていただきました。

開館してから三十年あまり、鞆の歴史を知ってほしい、自分たちの勉強では気付けない深い学びをしてほしいという思いで、展示や催し物を企画し、運営していると話してくださいました。これからの抱負をうかがうと、「鞆の歴史が分かるとても貴重な資料が収納庫にたくさん保管されているので、公開できるようにきちんと整理していきたい。」、また、「中村家古文書が残っていたことが分かった。これを解読することで江戸時代の生活の様子が紐解くことができ、新たな発見につながるかもしれない。」と教えてくださり、期待いっぱいの気持ちが伝わってきました。

通堂さんのお話をうかがう中で、昔の人たちは鞆のことを大事に思い、それを形にして残してこられたということが分かりました。歴史を学べるのは、そんな鞆の先人の方のおかげだと思いました。鞆の人々の意識や行動によって貴重なものが残され、大切に伝わってきているので、このバトンをつないでいきたいと思いました。まずは、新聞を通して伝え、知ってほしいと思いました。

（和田　葉澄輝）

松居さんは、いろいろな仕事を経験される中で、どの仕事においても常に目標をもち、全力で一生懸命に打ち込んでおられたことが伝わってきました。また、「やってきたことや身に付けた技能は、次の仕事に必ず生かされる。全部がつながっている。」と、言われたことがすごく心に残りました。今やっていることはつながっていて、無駄なものはないということが分かりました・将来やりたい仕事を早く見つけたいと思いました。

（志田　菜渚花）

（松木　美里）